

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2302100107		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホーム うらら奥町 1F		
所在地	一宮市奥町字内込45-11		
自己評価作成日	平成25年 12月 1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200107-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200107-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成26年1月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

併設の小規模多機能型居宅介護と合同でイベントを開催したり、お互いの利用者が行き来したりして、協力関係を築きながら取り組んでいる。  
最近ではパン教室を開催し、小規模・グループの利用者様合同で、パン作りを楽しんでいる。小規模を利用していた方が入居された後、小規模利用者がグループホームに遊びに来られるなど、利用者同士の交流も行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、小規模多機能を併設していることもあり、職員間の連携も柔軟にとられている。取り組みとして、避難訓練を合同で行いながら、事業所全体で夜勤者が3人配置されている効果が発揮されるように複数回実施しており、職員への徹底をはかっている。また、ホーム名でもある「うらら」は、運営法人共通の名称でもあり、「絶え間ない笑顔とやさしさうらかに」という共通の理念と、春のようなほんわかした雰囲気づくりを行っていくことを目指して運営されている。そのような方針のもと、ホームでは、利用者一人ひとりが、日常生活のなかで、できることに参加しており、洗濯物をたたんだり、食事の準備を職員と一緒にやっている。また、ホームでは、利用者、家族からの意見や要望等を把握するために、通常の意見箱の設置の他にも「声のポスト」を設置しており、意見等の把握に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を「絶え間ない 笑顔と優しさ うちに」と定め、玄関に掲示している。	運営法人共通の理念のもと、職員への浸透に取り組んでおり、朝礼時の唱和等を行っている。また、休憩室内への掲示の他、ホーム玄関先に看板として「理念」と「ホーム名の由来」を掲げており、地域の方にも伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ入会し回覧板を回してもらっているほか、行事の際には両隣にお声掛けとともにご挨拶に行くようにしている。敬老会の参加もしている。近所の方が手作りされた小物類を持ってきてくださったこともある。	町内会に入り地域の情報を得て、運動会や清掃活動等への参加が実現し、ホーム便りの配布も行っている。また、中学生の職場体験の他にも、ホームで開催した夏祭りにはボランティアとしての参加が得られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りに参加していただいている。回覧板にて案内やお礼状を回している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町会長、民生委員、ご家族の意見をうかがい、市役所高年福祉課、地域包括支援センターのご指導を受けている。ご利用者にも参加いただいている。	ホームからは、利用者の状態やホームの活動状況等の報告が行われている。また、出席者には、外部の団体の方の参加も得られており、会議を通じて権利擁護活動の説明が行われ、運営への反映につなげている。	会議の町内の方が出席してもらい、ホームの理解を得てもらえるような働きかけに、継続した出席への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話などで疑問点などを尋ねるようにしている。窓口に出向くこともある。	併設事業所の利点を活かしながら、市担当者や情報交換し現状等を報告している。市内の介護事業所が集まる連絡会や研修会にも出席しながら、利用に関する情報交換等につなげている。また、地域包括支援センターとの情報交換にも努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議の際に勉強会を断続的に行うなどして、職員の意識づけに努めている。	身体拘束を行わない方針のもと、玄関の施錠を行わず、利用者の見守りの徹底に取り組んでいる。また、ホーム内研修会の講師を職員持ち回りで行うことで、言葉による拘束も含めて、職員の意識の向上を目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	改めて学ぶ機会は少ないが、施設職員として普段の介護の中での意識づけに努めている。市主催のセミナーに出席。その後職員会で発表。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者会議の議題に挙げるなどして、制度の理解と支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項説明書・契約書の内容を口頭で読み上げながら説明するとともに疑問点にも答えて理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、重要事項の説明の一環として苦情窓口の説明。玄関にご意見箱の設置。推進会議への「声のポスト」等設置。	ホームでは、行事に合わせて家族との交流の機会をつくっており、意見交換等につなげている。玄関に意見箱を設置して家族からの意見等を出してもらったり、2か月に一度、「うらら新聞」を発送し、個別の便りを毎月発送している。	ホームでは家族会を開催しているが、家族の参加が難しい事もテーマとして残されている。今後に向けた、より家族が参加する取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議、フロアリーダー会議を開催し、改善できる部分と改善しなければならない部分から順次意見を反映している。	ホームで行っている全体会議の後にユニットに分かれて、現場職員間での話し合いを行っており、運営への反映につなげている。また、個別面談は、事業所全体を統括する施設長により行われており、現場の意見等の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト勤務の時間帯や内容を見直しつつ、利用者の生活を考慮しつつ、改善を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修に参加を促し、学んだことを職員会で他の職員に伝達するようにし、また職員会議の際にテーマを決めて勉強会をしている。欠席者は議事録を必読。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者連絡会やケアマネ会に出席するなど、交流の場に参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際にはご家族からの話になりがちであり、ご本人からは入居後に聞くことが多い。なるべく本人との面談の機会を設けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの相談は随時お聞きして、不安を少しでも取り除き安心・信頼していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の要望ばかりではなく、ご本人とご家族にとってグループホーム入居が適切かどうか見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活のリズムを尊重して、出来ることが少なくならないようフォローする。言葉に出来ないことを汲み取れるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診付き添い、施設の行事参加、推進会議への出席依頼など連絡を密にとっている。本人の状態の変化なども必要に応じて連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との面会・外出・外食は多くあり、昔なじみのご友人が訪れていただくこともある。キリスト教徒の入居者の元に神父さんが来る。	利用者が近くに出かけた際に、馴染みの方と挨拶を交わす機会が得られたり、馴染みの友人がホームに訪問する機会も得られている。また、墓参りについては、家族による対応の他にもホームで職員が同行して対応したこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や性格を把握し、必要があれば職員が入って良好な関係が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、新しい施設へ入所者と面会に行ったりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を随時聞き、希望に添えるよう努めている。困難な場合は説明して納得・了解していただく。	利用者の把握は職員全員で行っており、利用者がソファで寛いでいる時間や、入浴時にも確認している。把握した情報は、申し送りの際や独自の様式をとり入れたアセスメントにもつなげており、半年に1回の見直しにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申込時の面談や入居契約時に、本人の生活環境やサービス利用経過を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面談や入居後の様子を見て、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人について気づいた点・気になる点など申し送りノートに記入し、朝の申し送り時にも確認するようにしている。また、入居者ご本人にも話を聞き、本人の意見を計画に反映するよう努めている。	介護計画は、基本6か月で見直しを行っており、カンファレンスでも話し合いながら随時の見直しにつなげている。カンファレンスの内容を職員にも分かるように、グリーンの用紙にすることで、日常の記録を通じ3か月のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録への記入、介護記録表・排泄記録表の活用。業務日誌の特記事項への記入。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のその時々要望に沿えるよう、柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々(歌・演芸・フラメンコ・フラダンスなど)に来ていただき、入居者に楽しんでもらえるよう心がけている。音楽療法・リハビリ体操など講師を招いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族と話し合い、往診対応可能な提携医療機関への転院や、ご希望に応じて通い慣れた主治医に継続して受診するなど、個別に対応できるよう配慮している。	ホームでは、協力医による2週に一度の往診があり、急変時等の際には、24時間の連絡体制もある。受診は、基本家族による対応であるが、ホームからも口頭又は書面で情報提供が行われている。また、訪問歯科も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がスタッフにおり、投薬の管理・体調管理を行っている。介護職は入居者の身体状態の変化があった時に看護師に伝えて指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は見舞いに行き、入居者の治療状況の把握に努めている。入院中はケアマネが窓口となり、病院のソーシャルワーカー・家族と密に連絡をとり退院に向けて備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に施設としての考え方を話しし、ご家族の意見・希望をお聞きし、状況に応じた対応を心がけている。	ホームでは、看取りを見据えた支援を行うこととしており、契約時にもホームの対応についての説明が行われている。また、職員会議を通じた勉強会も行われており、管理者や看護師との連絡についても確認が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに沿って初期対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内連区防災・災害訓練に参加し、地域住民との協力体制を築くよう努めている。	避難訓練を2か月毎に、ユニット毎と併設の小規模多機能との合同での訓練が行われている。訓練の際には、消防署の指導等を受け、地域の方の参加も得られている。また、ホームの2階に、水、食料等の備蓄が行われている。	地域の方に、よりホームでの取り組みを理解してもらうために、運営推進会議を活用した取り組みも構想されている。相互に協力することで、より良い助言等が得られることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーに配慮した言葉かけや対応をするよう心がけている。	職員の利用者への声かけについては、利用者への尊厳への配慮を行うように話し合いが行われ、管理者、リーダーからも日常的に注意を促すように努めている。また、接遇面に関しては、ホーム内の研修の機会もつくられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の人格を尊重し、言葉や話しかけ、声かけの仕方を工夫して接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性やペースを大切に、個人の希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣介助の時には本人の希望に沿いつつ厚着になったり薄着になったりしないように声かけ・提案をしている。また、外出用と部屋着を区別するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳はできるだけご自分で行なっていただくよう心がけている。調理の下ごしらえ(もやしのみげとり、えんどうのすじ取り)などを手伝っていただいている。配膳は一部の入居者が取り仕切って実施している。	メニューは、法人の管理栄養士がつくり、利用者の好みや嗜好に合わせたアレンジも行われている。また、利用者も食事作りに参加しており、職員も一緒に食事を行っている。また、手作りおやつを取り組みや、外食の楽しみも行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	趣向や小食希望の方、トロミの有無、粥など、個別の状況に応じて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後・食後・就寝前の口腔ケアの実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排尿・排便状況を記録にて把握している。	排泄チェックを行うことで、間隔があいた際には、情報を職員間で共有しながら、トイレへの声掛けのタイミング等を確認するように取り組んでいる。取り組みの結果、紙パンツから布パンツへの変更等、排泄状態が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排尿・排便状況を記録にて把握し、排便の間隔には気をつけている。個々の状況に応じて食事やおやつ・飲み物での解消に心掛け、それでも解消しない時は下剤・整腸剤での調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めてあるが、体調優先で入浴していただいている。どうしても入浴したいという方にはしていただくこともある。	基本、週3回の午後の時間の入浴となっているが、利用者の希望により毎日の入浴も可能となっている。また、入浴の順番への配慮が行われたり、好みに合わせた入浴剤の使用、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の楽しみも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠がスムーズにできるよう、日中に散歩や体操、レクリエーションなどで体を動かしてもらい、心地よい入眠ができるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を常備していつでも確認できるようにしてある。短期の服薬(風邪薬など)についても看護師が薬をセットする。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の生活歴や趣向・残存能力を鑑みて、その人に応じた楽しみを見出すように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物、喫茶店モーニングなど、外出する機会を設けている。気候が良い時期には遠足・外食などを実施している。	ホームでは、日常的に外出の機会がつけられており、日常の散歩をはじめ、買い物や喫茶店でのモーニング等にも出かけている。また、季節に合わせた外出も行われており、花見や遠足の機会、希望に応じた外出にも取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人の金銭は、一括管理をさせていただいている。財布の中に小額を入れて持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人用の携帯電話を持っている方がいらしゃり、時々直接連絡をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作った作品(貼り絵・塗り絵・折紙など)をリビングに飾っている。季節感を感じられる作品をスタッフと入居者で作って飾っている。	リビング内は落ち着いた色彩で統一されており、季節感のある飾り付けを行うことで、利用者は落ち着いて過ごすことができる。また、キッチンがリビングの真ん中にあることで、職員の見守りがしやすい設計が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室に腰掛けたり、ソファで自由に座っていただいている。テーブル席もあり空間作りに配慮している。夏は夕涼みに縁台を活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、在宅時に使い慣れた馴染みのあるものを持ち込んでいただくようお願いしている。見覚えのある品々が環境作りに欠かせないことを家族に伝えている。	居室には、自宅から家具、テレビ、ベッド等が持ち込まれている他、利用者の馴染みの物を持ち込まれており、個性のある居室づくりが行われている。また、各居室の戸には、花の模様のガラス窓が取り付けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを各所に取り付けたり、キッチンの高さを通常より低くしたり、高齢者が使用しやすいように配慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム うらら奥町

## 目標達成計画

作成日: 平成 26年 4月 22日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	夜間を想定した避難訓練 災害時における近隣との連携の強化	近隣の方を誘っての避難訓練	毎月の避難訓練に「夜間想定」を加える 運営推進会議を利用して、近隣の方との合同での避難訓練	3ヶ月
2	3 6	家族会や家族間の交流会	家族会の開催	・夏祭りやクリスマス会など、ご家族がホームに訪問しやすい行事をきっかけとして参加を促す。 ・運営推進会議への出席を継続して呼びかける	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月